

「保険診療主体、夕方や週末も診察、アクセス便利、豊富な実績と症例件数」が旗印！ 患者さん目線に立った最善の医療を提供するために、 電子カルテQualis(クオリス)は連日フル活動しています。

皮膚科・小児皮膚科・アレルギー科・形成外科 医療法人社団健昇会 渋谷駅前おおしま皮膚科(東京都渋谷区)

「医療法人社団健昇会渋谷駅前おおしま皮膚科」は、小児から高齢者まで幅広く、皮膚に関することなら何でも診察できるクリニックを理想として、2014(平成26)年3月に開業しています。患者さんの利便を考えて、夕方遅くや週末にも診療を行っているのが同クリニックの大きな特徴です。

また同クリニックでは、電子カルテシステムQualis(クオリス)と連動した自動精算機が稼働し、患者さんの待ち時間短縮に大いに役立てています。

今号では大島昇院長より電子カルテシステムと自動精算機運用のメリットと、Qualis(クオリス)の今後の活用などについて伺ってきました。



大島 昇院長



クリニック入口



受付

■駅から徒歩1分

「渋谷駅前おおしま皮膚科」は、JR渋谷駅西口、南口から徒歩1分のNT渋谷ビルの3階です。歩道橋をセルリアンタワー方向に降りたところにある、エポスカードATMの隣のビルにあります。

清潔感溢れたオフホワイト系を基調とした配色の院内は、受付と3つの診察室、カウンセリングルーム、手術室、処置室で構成されています。また、皮膚科クリニックとしては大病院並みにQスイッチルビークーラー、VビームII、全身型ナローバンドUVBをはじめとした数々の最新のレーザー治療装置を持っているのも大きな特徴となっています。このため、通常の皮膚科疾患のほかに美容皮膚科・形成外科領域まで相談・治療を受ける患者さんも多いということです。

スタッフは、常勤の大島院長以下非常勤医師が24人、看護師13人、受付兼看護助手13人という陣容です。診療が夕方や週末も行うこともあって、医師は常時3〜4人体制をとっています。

■医療はサービス業

大島院長は、開業前は大学病院や総合病院の勤務医でした。そこで感じていたことは、大病院に来られる患者さんは症状が重症化してからの方が多く、軽度の段階ではなかなか来れないということでした。

そこで、「重症化する前に治したい。軽症のうちに治すことができれば、トータル的に医療費も安くて済みます。医療費が下がることで、世の中のためになれば良い」と考えて、開業に踏み切りました。

院長の持論は「医療はサービス業である」ということ。医療こそが、普通の人が働いている時こそ働くべきというお考えで、「本音を言えば365日働きたい」ともおっしゃっています。続けて、「理想としては、常にそこへ行けば安心という形の医療を提供できるようにすること。こういうことが広がって行けば、世の中を便利にする」とも話していました。

■患者さんに責任を持つ

開業当初は勤務医時代からの患者さんが多かったの



待合スペース



GENOVA社製自動精算機



第2診察室



手術室(Qスイッチルビークーラー(左)とVビームII(右))

すが、渋谷駅や恵比寿駅近辺のみならず、意外と遠くから来られています。また、院長は手術が得意であったうえ、患者さんなどいろいろな人の口コミでたくさん手術患者さんが来られています。手術は、多い時には1日25例も行っています。来院患者数は年間約8万人、手術件数は約7,000例という豊富な実績と症例数を誇っています。

「重症で手術が必要な患者さんは、県外からも多数いらっしゃると思います。医師は、診断から治療、手術、予後管理に至るまで、全てに責任を持たなければいけないと考えています。術後の経過に関しては、順調な患者さんは他の医師にお願いしても良いと思いますが、原則としては最初から最後まで私が診ます。特に、何となくおかしいとか、調子が悪い患者さんは最後まで私が診る」というのが大島院長の医療スタンスです。

また、院長は「何か迷った時には患者さん目線に立つ」ということだけを考えるということです。それで最初は、待ち時間を短縮するために医師や看護師などの人数を増やし、電子カルテを多数導入すると診療の流れがスムーズになるので、電子カルテを増やしてきました。

今日では皮膚疾患に悩む小児から高齢者まで、いつも数多くの患者さんと関わっています。これも「患者さん目線に立った医療を」と保険診療主体で有能な医療スタッフと共に、最新の治療機器を装備の上、最善の医療を提供する大島院長の強い信念に基づく姿勢の表れといえます。

■自動精算機と電子カルテの導入

「渋谷駅前おおしま皮膚科」の診療を支えているのが電子カルテQualis(クオリス)です。開業と同時に運用を開始し、現在、受付に4台、3つある診察室に各1台、カウンセリング室に1台、バックヤードに3台配置されています。クリニックで11台もの導入は多いのではないかと思います。同クリニックではまだまだ増設を考えているということです。

「手術のための検査も多く、その点業界No.1の検査センターBMLが開発した電子カルテだけに信頼がおけます。週末も診療しているため、たとえトラブルの場合でも遠隔操作で直してくれるというサポート体制がしっかりしているので、安心ですね」と院長は、Qualis(クオリス)導入のポイントを話してくれました。

最近の朗報としては、Qualis(クオリス)と連動したGENOVA社製自動精算機「NOMOCa-Stand」が稼働を開始しました。これにより会計がよりスムーズになるため、患者さんの待ち時間もより少なくなっています。

■電子カルテは必須のアイテム

最後に、「渋谷駅前おおしま皮膚科」の果たす役割と、電子カルテQualis(クオリス)の活用法について伺ってみました。

「一番のやりがいは“社会貢献につながること”です。そこで、都心の駅の側で皮膚科を開業して、コンビニのように便利なところから、重症患者まで診られるクリニックのビジネスモデルをつくらうと考えました。このようなクリニックがどんどん広がっていくことによって、世の中はきっと便利になるだろうと考えています。

電子カルテは、クリニックの中では要の一つです。そのため、サーバー等にトラブルが発生すると大変なことになりますが、Qualis(クオリス)はリモート操作でサポートしてもらえるので、そういった意味でも安心できる電子カルテを導入できて良かったと思っています」と大島昇院長は、Qualis(クオリス)に厚い信頼を寄せていました。



処置室



全身型ナローバンドUVB



ターゲット照射型エキシマライト



IPL光線治療器ソラリ



レーザー治療器クラリティ